

共同印刷、分別可能なラミネートチューブ容器を開発 リサイクル容易なモノマテリアル化製品で環境に配慮

共同印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:大橋輝臣 以下、当社)は、従来リサイクルしにくいといわれていたラミネートチューブ容器において、印刷層やバリア層を容易に剥離させ、資源の分別を可能とした「易剥離表層ラミネートチューブ」を開発しました。バリア性を損なうことなく、「リサイクルが容易なモノマテリアル化」を実現し、環境に配慮した開発品です。

※10 月 14 日から東京ビッグサイトで開催される「TOKYO PACK 2026」へ参考出展します

地球温暖化に起因する異常気象など環境問題が深刻化するなか、包装材料の環境負荷削減が求められています。省資源化はもちろんのこと、どう資源循環させるかも課題です。ラミネートチューブ容器では、リサイクルを容易にするモノマテリアル(単一素材)化が注目を集める一方で、バリア性の面での妥協や国内のリサイクルシステムで新素材の適用が難しい点など、実現には多くのハードルがあります。

そこで当社は、分別可能でリサイクルしやすい設計のラミネートチューブ容器「易剥離表層ラミネートチューブ」を開発しました。本品は、モノマテリアルのラミネートチューブに、意匠性やバリア性などの機能を持たせたオーバーフィルムを表面に積層し、高い機能を持ちつつ、廃棄時にはチューブ本体とオーバーフィルムを分離し分別しやすい設計となっています。「ペットボトル飲料のラベルを剥がしてリサイクルする」という行動が消費者に定着してきたこともヒントにした開発品です。

今後も持続可能な社会の実現に貢献すべく、新しい視点で製品の開発に取り組んでいきます。



製品イメージ図

【本製品(特許出願中)の特長】

- ・ラミネートチューブとしてのバリア性を維持しつつ、特殊な設備や薬剤を使わずに消費者自身の手でオーバーフィルムを容易にはがすことができる
- ・ベースとなるチューブ本体はモノマテリアルとすることで、オーバーフィルムを剥がした後のリサイクル性が向上
- ・オーバーフィルムにバリア性や意匠性などの機能性を付与可能
- ・従来のシュリンクフィルムやラベルと異なり、お客さまの製造工程に新たな設備導入や作業工程を追加することなく環境対応化が可能

本開発品は、2026年 10 月 14 日(水)～16 日(金)に東京ビッグサイトで開催される「TOKYO PACK 2026」の当社ブース(東 1 ホール 1G15)にて参考出展します。ぜひご来場ください。